と宣言した。

グレン・ダイガー氏が 会式では、IWA会長の

た(事務局発表)。開

八以上の専門家が集結

造しよう」をテーマに行

れ、世界97カ国から2

の総会が先月21日から5 日間ポルトガル・リスボ

> が参加した。展示会はも 勢120人以上の関係者

注目すべき発表は次の3 え、地球規模の問題を解

国際水協会(IWA)

ン市で開催された。

今回は「水の未来を創

水リスク

グローバルウォータ・ジャパン代表 (国連テクニカルアドバイザー)

和就

されたが、筆者から見て ▶18 ラなものを三位一体で考

する全ての事柄を統合 ある。ともすればバラバ 果を最適化する考え方で 成するためにシナジー効 的・重層的に考え、持続 組み合わせ、 可能なエコシステムを形 「水・エネ 濃度の農業用水を確保す することにより、 る試みである。 溶液に移動し、水循環を から淡水が肥料を含んだ 業生産にふさわしい肥料 繰り返すことにより、 ん水の間にFO膜を配置

ウォーターネットワーク ネットワーク ている、各種センサーと 欧米を中心に展開され

③スマートウォーター 海水側 .VIL**Lio**i

玉 を抱合し、水の管理を最

御礼を述べるとともに、 水の未来を創造しよう。 世界の水問題を解決し、 |参加者にIWAを通じて 府、リスボン市に開催の 開催国のポルトガル政 る技術セッションでは発 ちろんのこと、水に関す 本人が発表、 表件数約350件の内24 約600件の内50件で日 件、ポスターセッション 存在感を示 Food Nexus) 点であった。

注目すべき発表

一回、多くの発表がな

王寰

なるため関心が高く、総

WA東京総会の開催国に

日本は2018年に1

ட்: Water-Energy-糧の連結・連携 ①水とエネルギーと食 W E 念となるだろう。 からの水を考える上位概 決する概念である。これ ②淡水化技術の未来

E)を中心に始まった水 米国エネルギー省(DO このWEFの概念は、 ある。肥料成分の含まれ 用水を確保する考え方で (FO膜)を用いて農業

を中心とする食糧問題を とエネルギー問題に欧州 た濃度の濃い溶液(ドロ 溶液)と海水またはか

特に正(順)浸透膜 業・団体が出展、開催国 世界各国から約200企 展示会の模様 同時開催の展示会では

で、今後、世界の主流に 適化する情報システム なるビジネスである。 の共同出展者は、日本水

を除く国別展示では、最 大規模になったジャパ 合会、水ing、大成機 会、東京都水道局、東京 工、クボタ、メタウォー 局、日本水道工業団体連 都下水道局、横浜市水道

ン・パビリオン(写真) に人気が集まった。 ジャパン・パビリオン た。 日本の技術をPRしてい ターで、プレゼンの場で

向上を プレゼン能力の

道協会、日本下水道協

としてビジネスフォーラ ビジネスマッチングの場 ムが開催された。日本は 会期中、グローバルな

れるべきである。 ン・パビリオンに参加し 2日間に渡り、ジャパ 欧米人の活用も視野に入 た。邦人の留学経験者や 場があった。国際会議に 前の訓練不足が感じられ 味が分からず立ち往生の **福の棒読みや、質問の意** ルの低さが目立った。 を行ったが、残念ながら た企業や団体がプレゼン 慣れてないとはいえ、 他の国や企業に比ベレベ

ン能力の向上は東京総会 ゼンするようなもので、 は、自分の未熟さをプレ つくれ③両手は肩幅の外 された。具体的指導で 者は、言い回しや立ち居 目線は聴衆に向け笑顔を は、①原稿を見ること 振る舞いを徹底的に指導 に出し、フルに活用せよ 全て頭の中に叩き込め② つであろう。 国連本部勤務時代に筆 -などである。 プレゼ